

第5課 「霊の結ぶ実は寛容」

日曜日 忍耐は神の特質（出34：6）

Ⅱペトロ3：8，9には神と人間の忍耐とが対比されています。世の終りに向かって人間は忍耐しなければなりません、同時に神も忍耐しておられます。そしてその長さたるや人間とはとうてい比べものにはならない程です。実に神はあの「ノアの時代」から待っておられるお方と言ってよいでしょう。**問**下段に「クリスチャンが神についてのどのように考えるかは、彼の世界観や人間関係に大きく影響する」という文章があります。私はあの1タラントを隠したしもべのことを思うのです。「あなたは、蒔かない所から刈り取り、散らさない所から集めるひどい方だとわかっていました。私は怖くなり、出て行って、あなたの1タラントを地の中に隠しておきました」（マタ25：24，25）。

このしもべは怠慢な人ではありません。むしろ真面目で、それが故に冒険をしないで、無難に持ちこたえることを考えたのです。しかし、彼は主人を信頼していませんでした。これは当時のパリサイ人の生き方です。落ち度なく律法を守り、真面目に生きることをします。人から批判されないように気をつけます。神様から預かったタラントを大事に埋めて守ります。しかし、そこには神への信頼はなかったのです。彼らが抱いていた神のイメージは、失敗や間違いを厳しく追及する、怖い厳しい神でした。そんな厳しい神におびえて、恐れの中に住んでいたのです。あなたはどのようなでしょう。今もあなたに、忍耐と深い信頼を注いでおられる神をどのようなお方として見えていますか。

月曜日 忍耐の必要（エフェ4：1，2）

私たちの関心はいつも周りが変わることにあります。しかし、神の第一の関心は、私たちの周りではなくて、私たち自身が変わることにあるのです。私たちはその事を知ってはいるのですが、周りにばかり目をやってなかなか忍耐が学べないのではないのでしょうか。「忍耐の究極的な試験は、イエスの来臨を待つことです」（副読本37頁下段）。「最後まで耐え忍ぶ者は救われる。」（マタ10：22）。最後まで、すなわち「最後がある」ということです。どんなに大変な事も永遠ではない、それは限られた期間だけなのです。必ず最後があるのです。では「耐え忍ぶ」とはどういうことになるのでしょうか。苦しくても我慢すること！ そういう意味ではないようです。これはもともと「留まる」という言葉から来ているのです。「耐え忍ぶ」とは「留まる」ということです。どこに留まるのでしょうか。信仰に留まるのです。聖書が語っている「忍耐」とはそういうことです。多様性の中に生きる私たちですが、信仰に留まる祝福に導かれつつ「顔を合わせている」人たちとの関わりに生きさせて頂く事だと思えます。

火曜日 宣教における忍耐（Ⅱテモ4：2）

“クリスチャンでない人々は、クリスチャンにほとんど嫌気がさしている場合が多い。どんな会話にもイエスを持ち出す人間は不愉快だし、物笑いの種にもなっている” 何かにあった文章ですが、こういう背景も「宣教における忍耐」と繋がるのかも知れません。「重要なことは、熱心さのあまり、その人の妨げとならないことです」（ガイド）。ポイントはあからさまな伝道ではなく、心を込めてなす日々の務めこそが、伝道を大いに助けるといえることでしょうか。私たちの信仰が、良い家庭や良いビジネス、良い芸術、良い本、良い政治を生み出して行くなれば、人々は自ずとそれに気づき興味を持つでしょう。その時結果を神様は表して下さいます。

水曜日 忍耐の限界（創世6：3）

忍耐は、人生においてとても大切なものです。忍耐が欠けたために、怒りが爆発し、奈落の人生をたどることも起こります。“イソップに次のような話があります。農夫は、キツネがニワトリを盗むので大変憎んでいました。ある日のこと、農夫はついにキツネを捕まえたのです。そして、徹底的に懲らしめてやろうと、縄を油に浸し、キツネの尻尾に縛りつけて火をつけました。突然の災難に、キツネは、そこらじゅうを駆け回ります。そして、ある畑へと入って行ったのですが、実はそこはあの農夫の畑だったのです。……畑はその時期、小麦の収穫の季節でした。たわわに実った小麦は、景気よく燃え上がり、跡には何も残りませんでした。彼は悲嘆にくれ悲しみながら、家路についたということです。腹を立ててしまったために、大変に大きな損をしたというお話です。”しかし聖書は言います。「信仰が試されることで忍耐が生じる」（ヤコブ1：3）と。困難に直面し、その課題を乗り越えることによって、忍耐が生まれるのです。さらに聖書は「愛は、すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える」（Ⅰコリ13：7）と。忍耐は愛の実であることが分かります。愛が欠落すると、忍耐が困難になるのです。本当の愛があると、忍耐出来るのです。

木曜日 忍耐を養う（ヤコ1：2～4）

スポーツ界では肉体的な鍛錬が忍耐力・精神力を鍛えます。そこでは自分に負けてはならない世界です。それは人間に頼る忍耐です。しかしみ言葉が語る忍耐とは、人間が自分の力により頼む事ではありません。忍耐とは、自分の力ではなく、上からの力、キリストの愛の力によって与えられる忍耐です。キリストを見上げる事の中で、私たちに外から与えられる力なのです。自分の十字架を負う状況の下で生きる私たちにとっては、自分の力により頼む事など出来ません。しかし、誰にも忍耐出来ない状況をキリストが忍耐して下さいました。キリストが共に歩んで下さるから、私たちはどのようにこの人生が苦難に満ちていても、耐えてゆくことができるのです。この生き所こそあなたの力です。